

国立競技場

2013.7・8
Vol.598



2020年東京オリンピック・パラリンピック
招致気運を高めるためのシンポジウム・イベント



スポーツ博物館
デザイナーの祭典
東京オリンピック1964



FATHOMAL STRADITION



国立登山研修所
大学生登山リーダー春山研修会

2013年5月5日

セイコーゴールデングランプリ陸上 2013東京 開催!!

陸上の国際大会開催!

国際陸上競技連盟(以下、「IAAF」という)主催の世界サーキット「ワールドチャレンジ・ミーティングス」の一環として開催される陸上競技大会が、今年は国立競技場で開催されました。日本で唯一のワールドチャレンジ・ミーティングスの大会であり、世界の一流アスリートが集う1日の単発競技会としては日本最大級の大会となっています。今回は、第14回世界陸上競技選手権大会(2013年/モスクワ)代表選手選考競技会としての大会でもありました。



セイコー電光掲示板

ワールドチャレンジ・ミーティングスとは?

1年を通して世界各国で開催し、各種目上位3選手にポイントが加算され、年間最多ポイントを獲得した選手が優勝となる世界サーキットです。今回のゴールデングランプリ陸上は全15大会中第3戦目となり、前半戦の波に乗れるかどうかというキーポイントの大会でした。その後第4戦目はベレン(ブラジル)、第5戦目はボンセ(プエルトリコ)と続きました。

今大会では、男子9種目、女子7種目が実施され、また、IAAF主催のハンマー投げの世界サーキットである、ハンマー・スロー・チャレンジ(男子のみ)の開幕戦も同時に行われました。種目は少ないものの、世界各国からロンドンオリンピック出場選手等も参加し、全競技で観客を魅了しました。

大注目だった桐生選手(中央)

有名選手続々登場!大会新記録も出た!

女子は、走高跳のロンドンオリンピック金メダリスト、アンナ・チチェロワ選手(ロシア)が出場し、圧巻のジャンプで優勝。男子やり投げでは、ロンドンオリンピック出場の村上幸史選手が優勝。男子棒高跳では、新星、山本聖途選手が優勝するなど、日本勢も素晴らしい成績を残し、今後の活躍に期待が高まります。男子800mでは、アンソニー・チェムト選手(ケニア)が1分46秒51の大会新記録、男子3000m障害では、ジェイラスキブチョゲ・ビレチ選手(ケニア)が8分15秒26の大会新記録を樹立しました。

スーパー高校生 桐生選手も出場!

ゴールデングランプリ陸上の1週間前に行われた第47回織田幹雄記念国際陸上競技大会男子100mで、10秒01というジュニア日本記録を出した桐生祥秀選手の出場は、今大会注目の一つでした。今大会で10秒を切れるかと期待していましたが、風向きも悪く、残念ながら9秒台は出ませんでした。しかし、世界の強豪の中で素晴らしい走りを見せ、見事3位に入り、会場を沸かせました。今後は非常に楽しみな高校生です。



写真提供: 日刊スポーツ

国立競技場と共に歩んだセイコーの計時支援

今回の大会では、タイムや距離の計測ほとんどが、セイコーの電子機器により行われました。セイコーは1964年の東京オリンピックで、世界で初めて総合的な電子計時システムを導入し、華々しいデビューを飾りました。また、国立競技場で開催された1991年のIAAF世界陸上東京大会では、画像情報を電子的に処理する判定方法が初めて導入されました(1991年以前は、撮影した画像を現像し判定)。それ以降、セイコーの判定システムは幾度となく改善され、現在はIAAF世界陸上オフィシャルタイマーとして確立しています。時代を重ね、最新鋭の計測機材を伴って国立競技場に戻ってきたことは、とても感慨深いものでした。今大会では、1秒に2000回スキャンできる高精度カメラや、その2000枚の画像を数秒で処理するフォトフィニッシュシステムなど、僅差のフィニッシュでも正確に判定できる機材等、様々な最新機器が導入されました。



フィニッシュラインに置かれた高精度カメラ

IAAF認証陸上競技場(クラス2)検定実施

国立競技場は日本陸上競技連盟公認の第1種陸上競技場ですが、IAAF認証の陸上競技場ではありませんでした。オリンピックや世界選手権、それと同等の大会を開催するにはIAAFにより規定されたクラス1の陸上競技場である必要があり、今回のゴールデングランプリを開催するには、クラス2以上の陸上競技場でなければなりません。そこで、(公財)日本陸上競技連盟と(一社)東京都陸上競技協会、施工関係者協力の下、トラックレーン、フィールド競技の規格など、全ての設備を計測し直しました。日本では、クラス1取得の東北電力ビッグスワングスタジアム、神戸総合運動公園ユニバー記念競技場、長居陸上競技場、クラス2取得の長野運動公園総合運動場陸上競技場、川崎市等々力陸上競技場、味の素スタジアムに続いて7番目のIAAF認証陸上競技場となります。日本陸上競技連盟公認のための検定では、計測にトランシットやレベルという測量機器を使用しますが、直線距離は専用メジャーを使用します。またIAAF認証のための検定では加えて光波測定器も使用します。計測時に気温が上昇する場合は、トラック面の温度もかなり上昇するた



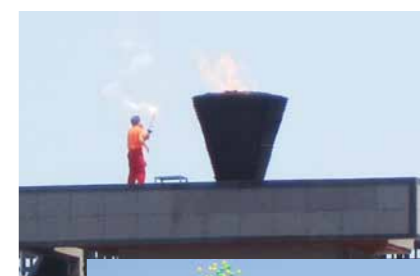
レーンの角度を計測(トランシット)

め、計測機器も微妙に変化します。そのため、計測時には、同時に測定する場所(ウレタン走路や芝生上)などの温度を記録し、温度変化によるメジャーの伸縮を決められた計算方式に当てはめ補正し、計測結果を出すという非常に繊細な作業をしています。もし、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催が決まれば、新しい国立競技場は陸上競技の会場としても使用される予定ですので、クラス1の認証が必要となります。

大会を終えて~古き時代から次世代へ~

国立競技場は1958年3月の竣工から、1958年アジア競技大会に始まり、1964年東京オリンピックや1991年世界選手権など数多くの国際大会を行い、また、今回もゴールデングランプリ陸上を開催することができ、改めて日本を代表する陸上競技場の一つであることを実感しました。全国には次々と最新施設を兼ね備えた陸上競技場が現れ、国立競技場はすでに古代ローマのコロッセオのような歴史遺産にもなっています。今回の大会でも、1958年からずっと競技場を見守り続けている聖火台から炎が上がり、古き良き時代から受け継がれてきたものが、より一層大会を重みのあるものに仕上げてくれたようにも感じました。

また、今大会では、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致イベントとして、5色の風船を飛ばし、開催決定を祈願しました。新しくなる国立競技場でオリンピックや多くの国際大会が開催できることを期待すると共に、再び日本の最先端をゆく陸上競技場として、誇りと尊厳を持って管理運営に取り組んでいかなければならない、と身の引き締まる思いになりました。



次世代を担う高校生により、聖火が点火されました。



願いを込めて、空に放たれた5色の風船

Cheer! NIPPON

2020年東京オリンピック・パラリンピック 招致気運を高めるためのシンポジウム・イベント

2013年5月23日（木）に、昨年12月に続き、Cheer! NIPPONによる「2020年東京オリンピック・パラリンピック招致気運を高めるためのシンポジウム・イベント」が、国立競技場で開催されました。Cheer! NIPPONは、「スポーツコミュニティ文化の創造・展開」「復興支援」「東京オリンピック・パラリンピック」をテーマにした、ニッポンを元気にしていくソーシャルムーブメントです。

今回の内容は、「アスリートの権利擁護とスポーツ団体のガバナンス」をテーマにしたシンポジウムの他、「2020年東京オリンピック・パラリンピック招致」をテーマにしたシンポジウム、ミニサッカー教室、藤田俊哉選手の送別試合を1日で行う盛り沢山のイベントとなりました。

日本スポーツ振興センター（JAPAN SPORT COUNCIL、以下「JSC」という）は、本イベントにおいて、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致気運を高めるとともに、先の日本スポーツ振興センター法改正を受けたスポーツ界における新たな取り組みテーマなどの理念に賛同し、共催の形で協力しました。

シンポジウムについては、国立競技場会議室で、日本スポーツ法学会の進行により進められました。

シンポジウム 1 「アスリートの権利擁護とスポーツ団体のガバナンス」

はじめに、伊東卓氏（日本弁護士会連合会弁護士業務改革委員会、スポーツ・エンタテインメント法促進プロジェクトチーム幹事・弁護士）による基調講演「JSC法改正を受け、スポーツ団体に求められる役割」を行いました。アスリートを暴力から守るためのスポーツ団体の取り組みと、JSCへの第三者相談・調査制度の新設に向けて、スポーツ団体の理解と協力が必要である旨の提起が行われました。

また、パネルディスカッションでは、菅原哲郎氏（日本スポーツ法学会スポーツ基本法検討専門委員会委員長・弁護士）の司会進行のもと、スポーツ関係者にお集まりいただき、日本のスポーツ立国へ向けての今後の努力、JSCへの独立性・中立性、公正性・専門性を維持した第三者相談・調査制度への期待の高まりなど、活発なご意見が出されました。



【パネラー】

- ・ 馳 浩氏（衆議院議員、超党派スポーツ議員連盟事務局長）
- ・ 鈴木 寛氏（参議院議員、超党派スポーツ議員連盟幹事長）
- ・ 河野一郎氏（日本スポーツ振興センター理事長）
- ・ 古田敦也氏（元ヤクルトスワローズ監督、プロ野球解説者）
- ・ 溝口紀子氏（バルセロナ五輪柔道銀メダリスト、静岡文化芸術大学准教授）
- ・ 杉浦久弘氏（文部科学省スポーツ・青少年局競技スポーツ課長）
- ・ 市原則之氏（公益財団法人日本オリンピック委員会専務理事）
- ・ 泉 正文氏（公益財団法人日本体育協会専務理事）
- ・ 浦川道太郎氏（日本スポーツ法学会会長、早稲田大学教授）



シンポジウム2 「アスリート発！ 2020東京オリンピック・パラリンピック招致」



写真左から、境田正樹氏、橋本聖子氏（参議院議員、アルペールビルオリンピック銅メダリスト）、古田敦也氏、藤田俊哉氏（元サッカー日本代表）、鈴木 寛氏、溝口紀子氏、名波 浩氏（元サッカー日本代表、サッカー解説者）

パネルディスカッションでは、境田正樹氏（日本スポーツ法学会・弁護士）の司会進行のもと、オリンピック参加経験を有するパネラーも交えて、昨年のロンドンオリンピックでの活躍で国内支持率が向上していることや、オリンピック・パラリンピックが平和のサミットであること、子どもたちにスポーツのすばらしさを伝えることの重要性など、東京が招致を目指す意義についての再発信の場となりました。

ミニサッカー教室、藤田俊哉選手送別試合

グラウンドでは、在日大使館の子ども達を交えたミニサッカー教室を開催し、スポーツの楽しさを共有するとともに、今回オランダに渡りサッカークラブコーチに就任する藤田俊哉選手の送別試合に集まった観客の皆さんに、東京オリンピック・パラリンピック招致に向けてアピールを行いました。



ミニサッカー教室に参加した子どもたち

今年9月に2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市が決定します。Cheer! NIPPONは招致活動に協力しています。

JSCとしても、引き続きこのような活動に協力していきます。

また、第三者相談・調査制度の実施に向けても取り組んでまいります。



さらなる競技力向上を目指して

●ハイパフォーマンスジム、風洞実験棟●



ハイパフォーマンスジム

近年の競技スポーツを取り巻く環境は、国際競技力の競争が激化していることに伴い、各国のナショナルトレーニングセンターの高機能化をはじめとする最新の科学技術を活用した国家的サポートが必要不可欠となっています。

そのような中、国立スポーツ科学センター(JISS)にも「ハイパフォーマンスジム」と「風洞実験棟」という、競技力向上を目指した研究・支援のための施設が新たに誕生しました！

●ハイパフォーマンスジム

(工期：平成24年11月12日～平成25年3月22日)

JISSの4階にあった研究体育館をコンディショニングやトレーニングの研究の場として更に充実させるため、ハイパフォーマンスジムに改修を行いました。スポーツ科学研究に必要な様々な技術・設備が盛り込まれ、多角的な研究ができるよう整備されました。



ハイパフォーマンスジム

●風洞実験棟

(工期：平成24年7月1日～平成25年3月29日)

味の素フィールド西が丘(サッカー場)の東側駐車場敷地に新たに建設された風洞実験棟には、スピードスケートや自転車競技などの競技力向上を目指すために、空気力の諸変化を測定し、動作分析することができる風洞実験装置という特殊な装置が設置されました。

「ハイパフォーマンスジム」及び「風洞実験棟」は、いずれも平成25年3月末に完成し、その後の調整を重ねた上で、実際のアスリートへの利用提供及び研究へのデータ提供が可能となります。

今回は、完成の報告となりますが、次回以降、それぞれの施設を詳細に紹介させていただく予定です。楽しみに！



写真上：風洞実験棟 写真下：風洞実験室

スポーツ博物館 デザイナーの祭典 東京オリンピック 1964

2020年の東京オリンピック・パラリンピック招致に向けてスポーツへの関心が高まっている中、秩父宮記念スポーツ博物館では、招致ムードを盛り上げるプロモーション活動として、出張展示や出展協力を積極的に行いました。

■出張展示

5月3日から6月2日まで、羽田空港国内線第2旅客ターミナル「ディスカバリーミュージアム」において、「昭和日本の夢1964東京オリンピック」を開催しました。

この企画展では1964年の東京オリンピックのポスターや参加メダルをはじめ、表彰式に華を添えた振袖などを展示しました。

ブラックベースの館内を考慮した照明や、ケースの奥行きを利用した吊り展示など、ディスカバリーミュージアムのゆったりとした空間を活かし、資料のデザインや美しさに趣を置いた展示を行いました。



昭和 日本の夢 1964 東京オリンピック

■出展協力

当館では2月13日から5月26日まで東京国立近代美術館にて開催された企画展「東京オリンピック1964 デザインプロジェクト」への資料の貸出しを行いました。

こちらの企画展は、1964年の東京オリンピックのデザインワークを振り返り、オリンピックを機に躍進したデザ

インの力を見出す内容になっています。

当館が貸出した展示品は、東京オリンピックの公式ポスターや参加記念メダル、競技シンボルが描かれた入場券、聖火トーチなどで、これらの作品群は戦後日本のデザイナーが総力を挙げて取り組んだ傑作とされています。



東京オリンピック1964 デザインプロジェクト

紹介した2つの企画展はどちらも展示品のデザインにコンセプトを置いています。

世界最大のスポーツ祭典であるオリンピックは近代以降、単なるスポーツ大会ではなく、世の中を変える力を備えた巨大なイベントへと変貌を遂げ、開催国に与える発展効果はスポーツの枠を超えて様々な方面へと繋がっていきます。「デザイン」もその例外ではありません。

1964年の東京オリンピックにより、当時の日本デザイン界は大きな変革・発達を遂げることに成功しました。

さて、間もなく2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市決定の大詰めを迎えます。

当館の1964年の東京オリンピック関連の所蔵品が、東京でのオリンピック開催への新たな意義や魅力を皆様にお伝えする一助となれば幸いです。

国立登山研修所 大学生登山リーダー春山研修会

5月に国立登山研修所が開催した主催事業について紹介します。



ロープ操作等の基本技術を学ぶ

修となりました。

また班別研修では、講義の内容を参考にしながら登山計画を検討したり、ロッククライミング訓練施設やスポーツクライミング用人工壁でロープ操作等の基本技術を習得しました。

入山中は、晴天に恵まれ、「雪上基礎研修コース」「雪上研修コース」「山岳スキー研修コース」に分かれて、剣沢や別山周辺で、ホワイトアウト時のナビゲーション技術や雪上歩行技術、雪上確保技術、テント生活技術等を学びました。そして、全班が別山尾根や平蔵谷、長次郎谷のルートから剣岳登頂を達成しました。

下山後の最終日には、「登山の運動生理とトレーニング」の講義後、研究協議として「どのようなリーダーを目指すのか」をテーマに一人一人が自分の目標や夢を発表し、講師とともに意見交換を行いました。

研修生は、7日間の研修を通して、登山の基本的な知識や技術を習得するとともに、この研修で習得した事を各大学のリーダーとして仲間や後輩に伝達講習することの重要性を学びました。

各大学において登山活動を行うクラブ等のリーダーとリーダー候補者を対象に、国立登山研修所及び剣岳周辺を会場として、5月22日から7日間の日程で開催しました。

38名の研修生は、初日から2日間、「春山の気象と雪氷」「登山の医学」「読図とナビゲーション技術」の講義を受講しました。入山前の講義では、いずれも実際の山行で起こり得る具体的な事例を挙げながら、その現象の仕組みや原因、対処法など詳しく説明されました。入山を控えた研修生にとって現実味のある内容であり、真剣かつ意欲的な研



剣岳登頂を目指して

国立競技場

サッカー	Jリーグディビジョン1 第14節 ヴァンフォーレ甲府vs浦和レッズ	(7/6)
サッカー	Jリーグディビジョン1 第16節 柏レイソルvs鹿島アントラーズ	(7/13)
陸上	第22回 関東マスターズ陸上競技選手権大会	(7/21)
陸上	RUNETフライデーナイト・リレーマラソン in国立競技場 夏大会	(8/2-3)
陸上	第31回東京マスターズ陸上競技選手権大会	(8/11)
陸上	第48回全国高校定時制通信制陸上競技大会	(8/12-14)
その他	日刊スポーツ主催 東日本大震災復興チャリティー 2013 神宮外苑花火大会	(8/17)(予備日8/18)
サッカー	Jリーグディビジョン1 第22節 FC東京vsサガン鳥栖	(8/28)

代々木第一体育館

コンサート	KTM TOUR 2013 闇から光へ尿意ドーン! ケツメイシTOUR 2013 ～ここが噂のパワースポットです♪～	(7/6-7)
コンサート	FTISLAND	(7/10-11)
コンサート	YUZU ARENA TOUR 2013 GO LAND	(7/14-15)
アイスショー	Disney On Ice トレジャーアクトロブ JAPAN TOUR 2013	(7/20-24)
コンサート	ayumi-hamasaki 15th Anniversary TOUR ～BEST LIVE～	(7/27-28)
その他	a-nation island powered by ウィダーinゼリー	(8/3-11)
コンサート	サンスター オーラツウ presents 25th ANNIVERSARY J-WAVE LIVE 2000+13	(8/16-18)
チャリディング	JAPAN CUP 2013 日本選手権大会	(8/23-25)

秩父宮ラグビー場

ラグビー	関東大学オールスターゲーム	(7/7)
コンサート	NEWS LIVE TOUR 2013	(7/26-27)
その他	日刊スポーツ主催 東日本大震災復興チャリティー 2013 神宮外苑花火大会	(8/17)(予備日8/18)

代々木第二体育館

バスケット	平成25年度関東実業団バスケットボールリーグ戦	(7/6-7, 13-14, 20-21)
一輪車	さわやか全日本一輪車競技会	(7/15)
新体操	青森大学新体操部	(7/18)
ヘアショー	WELLA TREND VISION AREA FINAL TOKYO	(7/23)
チャリディング	第9回チアコンペティション	(7/24-25)
空手	第14回全国空手道選手権大会	(7/27-28)
その他	a-nation island powered by ウィダーinゼリー	(8/3-11)
空手	第33回全国空手道選手権大会	(8/17-18)
バトン	第24回全日本バトン選手権大会	(8/19)
ファッションショー	TOKYO TOP KIDS COLLECTION A/W 2013 Girls & Girls COLLECTION A/W 2013	(8/22)
空手	平成25年度空手道剛柔会全国大会	(8/24)
空手	第29回全日本硬式空手道選手権大会	(8/25)
バスケット	第89回関東大学バスケットボールリーグ	(8/31)

味の素フィールド西が丘

サッカー	第15回 日本フットボールリーグ (2013) 第23節 (横河武蔵野FC vsホンダロックSC)	(8/3)
サッカー	プレナスなでしこリーグカップ2013 Bグループ 第10節 (日テレ・ベレーザvs浦和レッドダイヤモンズレディース)	(8/18)
サッカー	第18回 東京都サッカートーナメント準決勝	(8/22)
サッカー	第18回 東京都サッカートーナメント決勝	(8/25)

●スケジュールは変更になる場合がありますので、ウェブサイト等で必ずご確認ください。● <http://www.jpnsport.go.jp>

国立競技場 (☎ 03-3403-1151) 国立代々木競技場 (☎ 03-3468-1171)
秩父宮ラグビー場 (☎ 03-3401-3881)
味の素フィールド西が丘 (スポーツ科学センター) (☎ 03-5963-0203)

編集後記

「花火」日本の夏の夜の風物詩。近年、私にとって唯一のナマの花火の迫力を味わう所と言えば……毎年恒例となっている神宮外苑花火大会(8月)です。その会場として国立競技場が使用され、東京都民の納涼イベントの一つとなっています。冷たいビールとつまみを持ちながら見る花火は格別で、夏の夕涼み最高です。また、大会当日となると浴衣を着た女性が多く見られ、下駄をカラカラと鳴らしながら歩く風情はとて良いものです。年を負うごとに「暑いし、面倒くさいし、人混みが嫌」という気持ちになり花火大会に出かけることが遠のいていますが、久しぶりに自宅界隈の江ノ島、鎌倉、多摩川の花火大会に家族を誘ってみようかな。皆さんも、夜空を華麗に彩る花火を見て楽しい夏の思い出を家族と、恋人と、友人と如何でしょうか。(O)

国立競技場 第598号

2013年7月1日発行(隔月発行)

●編集・発行

独立行政法人日本スポーツ振興センター 広報室

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号

tel 03-5410-9121

※2012年10月1日より発行部署が変わりました。

●編集協力 株式会社ジャニス

